

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1958号 2009年02月09日(月)

## 《 Jabs on stimulus 》

オバマ大統領が、就任初日には署名して政権を始めたいと願った8000億ドルを超える景気刺激策は就任初日にはとても間に合わず、下院の審議が歳出重視で進んだのに対して、上院の審議では歳出部分が削られて減税部分が厚くなり、現在は経済効果に多くの疑問が付く状態になった。問題なのは、両院の案がその基本的な考え方において逆を向いているということだ。その上に、依然として両院の成案としての成立時期がはっきりしない。先週金曜日の株価は上院通過を先行して織り込んだが、実際には両院をいつ通過し、大統領署名をいつ迎えられるかは見えない。

オバマ氏は国民からの圧倒的な注目と、かなりの支持を得て大統領になりながらも、「議会」という難物に手こずり始めたと言える。初のキャンプデービッドでの週末も心穏やかとはいかないだろう。上院案は議会共和党から賛成者が数名出ることによって成立の見通しである。しかし上院案と下院案の調整は時間がかかるとの見方が強い

一方、その間にも昨年から今年にかけてのアメリカ経済の状況が極めて悪かったことを示す数字が出続けている。数字が示す景気の悪化はヨーロッパや日本でも同じで、現時点で言うと中国の一部にモノの動きの活発化を示す状況が見られるのみである。この中国の物流の活発化が世界の他の地域に広がるかどうか、今後の世界の焦点となる。

まず米議会の状況を見る。筆者がこの文章を書いている状況では、上院案は8270億ドルとなっている。規模は8190億ドルの下院案とあまり変わらないが、審議の過程で一端9000億ドル近くに規模が大きく膨れた後に歳出項目の中でもオバマ政権が重視する計画のいくつかは削られた結果の8270億ドルである。では、どんな計画が削られ、どのような控除措置が取られたのか。

Funding to computerize health records

National study on the comparative effectiveness of health treatments

A tax break for solar and wind firms

Medicaid payments to states

A \$500 payroll tax credit for people earning less than \$75,000

An expansion of tax credits for low-income work

最初の健康保険記録のコンピューター化は、オバマ政権の重要政策項目の一つである。その重要な計画が歳出削減の対象とされたことは、オバマ大統領にとって相当ショックだったはずだ。しかし法案全体を通すことが先だとの考え方から、オバマ大統領は上院で妥協が出来たこと自体は歓迎する、としている。しかしこの上下両院の案は、その基本的な考え方が逆を向いているという意味で、調整は難航するだろう。

なぜなら、下院案は州や地方公共団体が各種の支払いカットや職員の削減に追い込まれるのを阻止する内容を多く含んでいる（歳出重視）のに対して、上院は全く逆に下院案からその部分の支出を400億ドルもカットしていて、全体的には歳出に厳しい態度となっている。むしろ上院案は減税措置に重きを置き、失業者への健康保険支払いに不寛容の態度だし、食糧切符支出への削減も盛っている。

景気刺激策とは別に不良債権処理のために追加措置としてのバッドバンク構想に関しては具体的にどうなるのか、今だ明確な図式は見えてきていない。この週末のアメリカの新聞各紙によれば、以下の四つがガイトナー案の軸になると言う。

Fresh equity injections into banks (銀行への新たな株式資本注入)

new programs to help struggling homeowners (返済が困難になった住宅所有者を助ける新たな計画)

an expansion of a Federal Reserve program designed to jump start consumer lending (消費者金融を早期に大きく増加させるためのFRB計画の拡大)

a mechanism to allow banks to dump their bad assets. (銀行が不良資産を切り離すメカニズム)

ガイトナー財務長官は特に議会が承認している7000億ドルの金融安定化の為の基金の残る3500億ドルの使い道に関して、今週の10日に一連の発表を行うという。本来は9日の月曜日に予定されていたが、上院での景気刺激策審議が伸びているため。

またこれとは別にオバマ大統領がラジオ、インターネットを通じての週末の演説とは別に、テレビのゴールデン・タイムを使って今週国民向け演説を行う予定だという。この演説は恐らく月曜日になる可能性があるという。

### 《 very severe recession 》

実体経済を見ると、発表される数字で見ると各国の経済情勢は厳しい。むしろ例外もあるが、世界中の多くの企業が経営状態を悪化させており、世界中でレイオフ、解雇が相次いでいる。中でも世界最大のアメリカの経済情勢が置かれている環境は厳しい。それを1月の雇用統計で見ると、失業率は昨年12月の7.2%から大幅に上昇して7.6%になった。

非農業部門の就業者数は予想通り悪く、59万8000人も減少した。昨年12月分の就業者数減少幅も増加修正され、この結果昨年一年間の就業者数の減少幅は、297万人とほぼ300万人になった。これは1939年に統計を発表開始して以来最悪である。2007年12月の今回のリセッション開始以来の雇用の減少幅は、360万人となった。

オバマ大統領は直ちにこの数字を使って毎週金曜日の国民向けビデオ演説 ([http://www.whitehouse.gov/blog\\_post/compromise1/](http://www.whitehouse.gov/blog_post/compromise1/)) で、「Because if we don't move swiftly to put this plan in motion, our economic crisis could become a national catastrophe.」(この刺激策を敏速に実施に移せないなら、今の我々の経済危機は国家的な惨事になる)と議会に警告した。この警告もあって、議会も週末を通しての審議を行った。

もっとも失業率が悪化しているのはアメリカだけではない。今週末の日経ヴェリタスは「欧州が危ない」を一面に持ってきているが、その中にも例えば「スペインの来年の失業率は19%」という記述がある。政府のセーフティネットが厚いために直ぐに同国国民が騒ぎ出すというようなことは起きていないが、19%という数字が尋常でないことは確かである。他の諸国においてもおしなべて失業率の上昇が現実であり、「雇用」は世界的な問題となりつつある。

株式市場は世界的に、実体経済の厳しさからやや離れた動きをしている。雇用情勢の厳しさが改めて認識されたのに、ニューヨークの株式市場は上院での景気刺激策の可決見通しもあって、ダウ平均で200ドルを超える上昇を見せた。これを受けてドル・円相場も92円台に上昇。

今の為替市場の動きを見ると、実体経済の悪さは織り込んだ上で、株式市場がオバマ政権の景気刺激策をどう見て動くかに注目している様子が見える。ただしこのトレンドがどのくらい続くのかは分からない。円安は日本の輸出企業には予約状況にもよるが一息つける状況とも言える。

今週の主な予定です。

02月09日(月曜日)

12月機械受注・1-3月見通し

12月国際収支

1月銀行貸出動向

1月工作機械受注

1月景気ウォッチャー調査

02月10日(火曜日)

1月消費動向調査

12月特定サービス産業動態(速報)

米12月卸売在庫

バーナンキFRB議長が金融支援対策について  
議会証言(下院金融委員会)

	ドッド上院ファイナンス委員会委員長・ガイ スナ-財務長官と会談 ダラス連銀総裁講演（日本時間 10 日、10： 45） NY 連銀総裁講演 中国 1 月生産者物価 中国 1 月消費者物価 米 12 月貿易収支 米 1 月財政収支 米下院金融委員会公聴会（米銀 8 行（バンク オブアメリカ） シカゴ連銀総裁講演（「米経済見通し」） 中国 1 月貿易収支
0 2 月 1 1 日（水曜日）	1 月国内企業物価 米 1 月小売売上高 米 12 月企業在庫
0 2 月 1 2 日（木曜日）	10 12 月期のユーロ圏 GDP（速報） 米 2 月ミシガン大学消費者信頼感指数（速報） G 7（～14 日、ローマ） シカゴ自動車ショー（～22 日）
0 2 月 1 3 日（金曜日）	

### 《 have a nice week 》

風の強い日でしたね。午後に車で出かけたのですが、風で車が揺れましたからね。車が揺れる風というのは相当に強い。特に周囲に高いビルがある近くでは。東北新幹線が二回も運転中止になったのは当然だと思いました。

ところでこの週末に、「男道 清原和博」（幻冬舎）を最初から最後まで読みました。彼の自叙伝です。生まれ、小学校、中学、高校、西武入り、巨人、そしてオリックス。小さい頃から並外れて大きく、のちのち番長と呼ばれる素地が十分あったことが伺えるが、それよりも彼を取り巻く人間模様が面白い。

一番面白いのは岸和田のお母さんかな。清原が野球の強い高校に行くんだったら天理高校がいいと思って天理教に入信したが、PL 学園に入ることになったら入信を取り消して PL 教団に入ったと。ははは、清原が両方に失礼だと言っているのが面白い。フェラーリを最後までフェアレディーとしか覚えないうところも良い。

桑田との確執は、全部が書かれていないように思うな。もっといろいろあったように思う。それにしても、彼等が一年生の時に夏の甲子園で優勝したときは、私は池田高校のファンだったので、「この高校が池田に勝てるはずがないのに」と思ったら、あれよあれよと優勝して驚いたことを今でも覚えている。

さっと読める軽い本だが、時代を駆け抜けつつある人間の思い出話は自分が生きた時代とも重なるのでなかなか面白かった。野球が好きな人、清原という人間に興味がある人には推薦です。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》